

第 6 回精神科におけるチーム医療を考える会

医療法人水明会佐潟荘 リハビリ部

平成 29 年 9 月 22 日（金）第 6 回精神科におけるチーム医療を考える会に看護師、精神保健福祉士、作業療法士計 9 名で参加してきました。演題は①松浜病院における認知機能改善リハビリテーションの施行とその効果②松浜病院におけるクリパスの現状と課題③リハビリテーション計画の詳細と症例紹介でそれぞれに興味深い内容でした。

その中でも今注目されている認知機能改善リハビリテーションの施行とその効果について感想をお伝えします。松浜病院では BACS-J（統合失調症認知機能簡易評価尺度）の評価を用いた認知機能改善リハ（以下認知リハ）に取り組んでおり、外来患者を中心に週 3 回以上の認知リハを行っています。認知リハの中には先日当院からも研修に参加した、J-CORES も含まれていました。他にも紙面記入式訓練、ペグ訓練、ブロック訓練などです。認知リハで得られたデータは日常生活や就労の課題の結びつけより良い生活改善を行っていくことが出来る様でした。

実際の効果の中に就労についての前向きさや作業速度の向上の実感、コミュニケーション能力の向上を感じられた。治療者にとっても認知機能の細分化による具体的な目標設定がしやすくなったとのことでした。

しかし認知リハのトレーニング方法の難しさから、入院中の患者様が対象となる事は難しいようで、急性症状の落ち着いた外来患者様が対象となる印象を受けます。認知機能改善は様々な疾患の方に対応でき、必要性も感じます。当院ではデイケアで J-CORES 実施を検討していますが、その他の認知リハに関しても導入できるよう検討していきたいと思っています。

第6回精神科におけるチーム医療を考える会

医療法人水明会佐潟荘 看護部

9月22日に開催された、「精神科におけるチーム医療を考える会」に参加させていただきました。今回は松浜病院で取り組んでいる、クリニカルパスの現状と課題について報告させていただきます。松浜病院では10年ほど前からクリニカルパスを導入しており、急性期病棟に入院された患者様の早期の退院と診療行為を標準化、医療の質の向上を目的として導入されました。統合失調症パス、うつパス、躁パス、認知症パスなど疾患別でパスが作成されており、患者様の病状に合わせたパスとなっていました。内容としましては、入院から退院の期間をステージⅠ～ステージⅣと4つの構成で分け、定期的に他職種カンファレンスを開催し、各職種による多角的なアセスメントを行ない、主治医に次のステージに上がるか判断する流れとなっていました。これらの段階を踏むことで患者様の病状に合わせて治療やケアの提供が行なえるようになっています。また、各職種ごとに期間ごとのチェックリストを設けることで、他職種が関わり標準的な医療が提供できる事。患者様用、家族様用のパンフレットを使用して入院の理解を務めていく工夫などもされていました。

クリニカルパスの課題としましては、紙媒体の運用の為、パスに関する書類が膨大になり使用しにくいことや、精神症状が多岐に渡るため、標準的な経過を辿らず使用しにくいなどの意見が聞かれました。

当院では年々、高齢の方や独居の患者様が増加し、退院困難なケースが増加しています。これらのケースには入院時からの情報収集など早期の介入、他職種間での退院支援に向けた取り組みが必要とされます。これらの問題に向けて、精神科におけるチーム医療を高めるためにこういったツールは必要なのではないかと考えます。当院でもクリニカルパスの運用を検討していますが、実際に運用している他施設の課題など意見を伺いながら、当院にあったクリニカルパスの取組を行っていきたい。